

志木二中だより

令和元年度 10月号
志木市立志木第二中学校

令和元年10月1日(火)
志木市館1-3-1 TEL 048-473-2379



バスの中の出来事

校長 本 荘 真

『車内は暖房が効いていて、外の寒さを忘れるほどでした。まもなくバスは病院前に着き、そこではたぶん病院からの帰りでしょう、どっと多くの人乗りあつという間に満員になってしまいました。立ち並ぶ人の熱気と暖房とで先ほどの心地よさは一度になくなってしまいました。バスが静かに走り出したとき、後方から赤ちゃんの火のついたような泣き声が聞こえました。私には見えませんが、ギュウギュウ詰めバスと人の熱気と暖房とで、小さな赤ちゃんにとっては苦しく泣く以外方法がなかったのだと思えました。泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは走っていました。バスが次のバス停に着いた時、何人かが降り始めました。最後の人が降りる時、後方から、「待ってください、降ります。」と、若い女の人の声が聞こえました。その人は立っている人の間をかきわけるように前の方に進んできます。その時、私は、子どもの泣き声がかんたん近づいて来ることで泣いた赤ちゃんを抱いているお母さんだな、とわかりました。そのお母さんが運転手さんの横まで行き、お金を払おうとしますと運転手さんは「目的地はどこまでですか。」と聞いています。その女性は気の毒そうに小さな声で「駅まで行きたいのですが、子どもが泣くのでここで降ります。」と答えました。すると運転手さんは「ここから駅まで歩いていくのは大変です。目的地まで乗って行ってください。」と、その女性に話しました。そして急にマイクのスイッチを入れたかと思うと「皆さん、この若いお母さんは駅まで行くのですが赤ちゃんが泣いて、皆さんにご迷惑がかかるので、ここで降りるといっています。子どもは小さい時は泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて行ってください。」と言いました。私はどうしていいかわからず、多分皆もそうだったと思います。ほんの数秒かが過ぎた時、一人の拍手につられてバスの乗客全員の拍手が返事となったのです。若いお母さんは何度も何度も頭を下げていました。』



本校では、「道徳教育を通して、物事を多面的・多角的に考える生徒を育む」という研究主題で、令和元・二年度、市の委嘱を受け道徳について研究をしています。道徳は教科となり、教科書を使用し評価もすることとなりました。9月17日、3年生の4クラスで研究授業を行い教職員で授業を見合い、研究協議を行いました。このあと、12月に2年生、1月に1年生でも研究授業を行い、今月15日には大学の先生を招いて道徳についての校内研修会も予定しています。

いろいろな面、角度から物事を考えられ、広い視野をもち、心優しく思いやりのある生徒に育ってほしいです。それが本校の学校教育目標である「勇気 信頼」につながっていくのだと思っています。